

第 22 回中国地区大学男子ソフトボール選手権大会

会期：2022/11/20 8:51～

会場：福富多目的グラウンド

準決勝

第 1 試合 A 球場

環太平洋大学 A 1 1 3 3 2 10

広島工業大学 0 0 0 0 1 1

※規定によりコールド

環：松田(4回)奥間(1回) — 柴田

工：新谷 — 難波

本塁打：稗田、岡田、山本、明神(以上環)

三塁打：和田(環)

二塁打：蜂谷(工)

戦評(得点経過)

1 番山本が四球で出塁、2 番福島が手堅く送り 1 死 2 塁。ここで 3 番植田がセンター前にタイムリーヒットで 1 点を先制。

2 回表、7 番和田が四球とパスボールで進塁。2 死となったが 1 番山本のレフトへの飛球をレフトが落球し 2 点目を奪う。3 回には 2 死 1 塁から 7 番和田がレフト線を破るタイムリースリーベースヒットで 3-0。続く稗田が 1-2 からライトスタンドへツーランホームランを放ち 5-0。4 回表は 1 死から 2 番福島が内野安打で出塁し 3 番植田のセンターへの飛球を失策して 1 死 1.2 塁から 4 番岡田がセンターバックスクリーンへスリーランホームランを叩き込み 8-0 と大きくリードを広げた。5 回表は明神、山本のソロホームランで 2 点を加点し 10 点を奪う。守っては先発の松田が 4 回を被安打 1 に抑え 5 回には奥間が登板し相手の反撃を 1 点に抑えて 10-1 のゴールドゲームで決勝にコマを進めた。

準決勝戦

第1試合 B球場

環太平洋大学 B	2040000	6
広島修道大学	0000012	3

環：北川(3回)福德(4回) — 松村

修：音間(4回)杉原(1回 1/3)音間(1回 2/3) — 海谷

二塁打：大西(環)、海谷(修)

戦評(得点経過)

1回表、1番有村、2番木之本が連続四球で先制のチャンス。パスボールでそれぞれ進塁し1死後、4番高草がセンター前にタイムリーヒットを放ち2者が生還 2-0。

3回にはこの回先頭の大西がライト線へのツーベースヒットで出塁。4番高草が四球を選び無死 1.2 塁。続く大城の内野ゴロでランナーが入れ替わり、ワイルドピッチでそれぞれランナーが進塁して1死 2.3 塁、6番前田も四球を選び1死満塁のチャンス。ここで7番松村が初球をセンター前弾き返すタイムリーヒットで2者が生還して4点目。続く8番安藝も初球をレフト前へタイムリーヒットを放ち前田、松村と続けてホームを踏み 6-0 とリードを広げた。

4回からは、打線は少し雑な攻めとなりフライアウトが増え四球とヒットの2人しかランナーに出すことが出来なかった。

少し油断したものと思われる。

チームとしての課題だろう。

守っては先発の北川が3回まで5つの三振を奪う好投。4回からは福德に継投し粘り強く好投をしていたが、6回に単打ではあるが3本のヒットを許して1失点。7回にも2死から四球を含み3連打されて、まずい守備も重なり2失点。長打が出ればサヨナラのケースも考えられたが、最後の反撃も内野フライに切っ取り 6-3 で決勝にコマを進めた。

単調な投球が目立ち、今後の課題となる苦い経験だか、彼にとっては良い経験をつむことができたと思う。

決勝戦

環太平洋大学 A 000030 3

環太平洋大学 B 00006× 6

環 A：景山 — 柴田

環 B：北川 — 松村

本塁打：山本(環 A)、大城(環 B)

三塁打：有村(環 B)

戦評(得点経過)

決勝戦は昨年同様に環太平洋大学 A チーム vs B チームの顔合わせとなり両チームがっぷり四つに組んだ好ゲームとなった。

広島県ソフトボール協会を含め他大学のチーム選手も観戦、応援に訪れたご父兄の方々も観戦し決勝戦のプレイが注目された。

両チーム 5 回まで、ランナーを出すものの後続を抑える気合いの入ったプレイとなりました。

5 回表、A チームはこの回先頭の大橋が内野安打で出塁し果敢にスチールを試みるも、残念ながら離塁アウトの判定。続く 7 番望岡のショートゴロの処理、難しいプレイではあったが 1 塁へ悪送球となり 1 死 2 塁。

次打者が倒れ 2 死 2 塁から、9 番柴田はストレートの四球で 2 死 1.2 塁。ここで 1 番山本 A チームのキャプテン代行が 0-2 と追い込まれながらも体制を崩されたが、ヘッドを残し技ありのセンターバックスクリーンへ、スリーランホームランを放ちこみ 3 点を先制し均衡を破った。

しかしその裏の B チームの攻撃は、この回から代わった下河内から先頭の 5 番大城が 1-0 から右中間スタンドへソロホームランを放ち 1-3。

その後、3つの四死球を与えてしまい満塁から 1 番有村が走者一掃のタイムリースリーベースヒットを放ち一気に 4-3 と逆転に成功。

続く 2 番木之本もヒットで有村が生還し 5-3。木之本はスチールと相手チームの油断したスキについて、ホームスチールが成功して 6 点を奪うビッグイニングとなった。

ゲームではやはり四死球が失点に絡むケースが多いので、投手の課題として改めて取り組まなくてはならないと思われます。A チームに先発した景山は 4 回まで被安打 1 の安定した好投を見せた。B チーム先発の北川は 被安打 6 で本塁打を許したが気持ちを切らずに好投して勝利投手となった。